

平成18年度環境技術実証モデル事業検討会 有機性排水処理技術ワーキンググループ会合(第2回) 議事概要(案)

1. 日時：平成19年3月19日(月) 16:00～17:30

2. 場所：霞山会館 松の間

3. 議題

- (1) 実証試験結果報告書の検討について
- (2) 実証試験要領について
- (3) 実証機関の公募・選定について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

4. 出席検討員：藤田正憲(座長)、岡田光正、中井尚、名取眞

実証機関：大阪府 藤村正、阿部恭司

財団法人関西環境管理技術センター 門口敬子、若杉淳子

事務局(環境省)：水・大気環境局総務課環境管理技術室 五十嵐室長補佐
奥企画係長

事務局(財団法人日本環境衛生センター)：環境科学部 西尾

紀平

総務部 畑

5. 配布資料

資料1 平成18年度環境技術実証モデル事業検討会有機性排水処理技術
ワーキンググループ会合(第1回)議事概要(案)

資料2 平成18年度環境技術実証モデル事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野
のこれまでの経緯について

資料3 平成18年度環境技術実証モデル事業小規模事業場向け有機性排水処理技術分野
実証試験結果報告書(大阪府)

3-1 垂直重力式油水分離器(VGS)/日東鐵工株式会社

- 3 - 2 食品残さ簡易回収システム『ラクツチャ〜』/有限会社KOMATSU
- 資料4 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野における実証機関選定の考え方について(案)
- 資料5 実証機関の募集における申請書類について(案)
- 資料6 今後のスケジュール(案)

参考資料

- 1 小規模事業場向け有機性排水処理技術(厨房・食堂、食品工場関係)実証試験要領(第3版)
- 2 実証試験における試料の採水頻度及び採取方法について(大阪府)
- 3 環境技術実証モデル事業(小規模事業場向け有機性排水処理技術分野)に関するアンケート(平成15、16年度実証機関向け)の結果概要

6. 議事

会議は公開で行われた。

(1) 実証試験結果報告書の検討について

- ・事務局から資料2に基づき、前回WGからこれまでの経緯について説明。
- ・実証機関から資料3に基づき説明。

垂直重力式油水分離器(VGS)/日東鐵工株式会社について

【中井検討員】構造、考え方等非常に簡単ではあるものの有効な技術であると評価できる。ただ、実証試験で生じたトラブルについては、技術の構造上の問題か、或いは偶発的な問題か、どのように認識しているか。

【実証機関(阿部氏)】温度が低い場合に使用するヒーターがあるが、どのようなときに使用するという情報がなかったので、今回の実証試験ではヒーターをつけずに実証を実施し、外気温が低下したため油が装置内で固まってしまった。

【名取検討員】日間水質試験結果において、n-Hexは流入水よりも処理水の濃度が下がっているにもかかわらず、BODやSSは逆に上がっている。また、週間水質試験結果でもBODとSSが上がっている。n-Hexがここまで下がればBODやSSも普通は下がるものである。この理由として考えられることは何か。

【実証機関(門口氏)】機械の仕組みとして、機械への流入においてはスキマーを用いて油が浮上している部分をとる仕組みとなっている。そしてポンプでくみ上げSPAK内で油分と分離するが、エマルジョン化している場合、グリストラップに戻ってしまう。また、このような仕組みの機械である場合、流入水と処理水の間には、タイムラグが生じる。これらのことが原因ではないかと思う。

【藤田座長】サンプルとして採取される水質自体は時々刻々と変化していると考えてよいのではないか。

【実証機関（門口氏）】変動を見る上で流入、流出を同時に採取することは難しい。

【名取検討員】そのような流入水と処理水についての注釈を付け加えておくと、実証試験結果の閲覧者が誤った解釈をせずにすむのではないかと。

【藤田座長】実証機関で再度修正を行ってもらった後に実証運営機関を通じて環境省に提出するというのでよいか。他に何か意見はあるか。

【名取検討員】ランニングコストが非常に安価であるが、汚泥処理についてはどのようになっているのか。

【実証機関（阿部氏）】産業廃棄物として出しており、廃棄物処理費として計上してある。

【藤田座長】以前に広島県で同様の技術を実証した例があったが、この装置は処理機能の強化装置であり、とても有効であると考えられる。実証試験結果報告書については一部注釈を加えることとするが、概ね良いということでは了承することとする。

食品残さ簡易回収システム『ラクツチャ〜』/有限会社KOMATSU

【藤田座長】同規模のレストランでの実証試験であったが、非常に簡単な装置であるものの、非常に有用であると考えられる。

【中井検討員】非常に安価であり役に立ち、実用的な装置であると評価できる。毎日ネットを交換すると、1.4Kgの残渣が出るということであるが、この残渣は産業廃棄物として処理するのか、一般廃棄物として処理するのか。

【実証機関（阿部氏）】本実証試験は寝屋川市では、一般廃棄物扱いで問題ないとのことであった。しかし、市町村によって扱い方が変わる可能性はある。

【藤田座長】汚泥だと産業廃棄物として処理する必要があるが、用はキッチンのゴミになるので、一般ゴミの扱いで済むなら、処理費用も安価になり、普及を図る上では効果的と思う。

【中井検討員】自治体等がこのような判断を統一してくれると普及すると思うが。

【名取検討員】参考項目ではあるものの、こちらの技術に関しても日間、週間共に n-Hex の低下にもかかわらず BOD や SS が高くなっている。

【藤田座長】こちらに関してもサンプリングの難しさがある。

【実証機関（阿部氏）】こちらに関しても誤解釈のないようコメントを加える。

【名取検討員】グリストラップに汚泥が溜まるがこれについてはどのように処理しているか。

【実証機関（阿部氏）】パキュームで清掃し産業廃棄物として処理している。なお、この装置を装着すると、以前汚泥は一ヶ月に1回処理していたが、2ヶ月に一回の清掃でよくなる。したがって、ランニングコストでは装着前よりもコストが少なくてすむという計算になる。

【藤田座長】一般の従業員でも取替えが出来るという点はレストラン等では非常に便利である。従来は技術自体が比較的大規模であり、またそのまま河川に放流水として放流できる程度まで処理するものであった。今回の技術はスケールの小さい事業場にも対応可能であり、機能的にも有効である。本技術についても多少の注釈の追加が必要であるものの、概ね了承されたものとし、修正等を行った後環境省へ提出することとする。

(2) 実証試験要領について

- ・実証機関から参考資料 2 に基づき、実証試験要領(第 3 版) に対する意見について説明。

【藤田座長】今回の採水に関する問題については、実証試験要領に盛り込み改定していく必要があるか、ある程度実証機関の裁量に任せるかどうかについては、今後環境省として検討を行い、その後に WG として検討を行っていく。

(3) 実証機関の公募・選定について

- ・事務局から、資料 4、資料 5 に基づき、「実証機関選定の考え方について」及び「実証機関の募集における申請書類について」を説明。
- ・環境省から、参考資料 3 に基づき、「アンケート(平成 1 5、1 6 年度実証機関向け) の結果概要」を説明。

【藤田座長】昨年とほぼ同様であるが、環境省としては自治体のみならず NPO 等まで枠を広げて募集を行っていくということでもいいか。

【環境省】公平性等を担保出来るのであれば、一向にかまわない。

【藤田座長】選定までは従来の手続きを踏襲するものである。アンケートに関しては、日本では ETV が定着していないことが問題であると考えます。そのため、有料化すると実証機関の手が挙がらないのではないかと。

【環境省】アメリカでは国が対応しなくても、成り立っている。日本ではまだまだ実証することによるメリットを感じてもらえていないことが問題である。

【藤田座長】しかし、本分野では大阪府が、本年度有料化しても実証機関となった。実証を行った事業者のコメントはどうであったか。

【実証機関(阿部氏)】自社ではあまり細かいデータが取れず、また取れたとしても信頼性に欠けるという問題があったため、第三者機関が実証を行ったということで信頼性あるデータの取得、有効な評価をしてもらえたとの感想があった。

【藤田座長】中井検討員からも意見があったが、普及に有効なコンパクトな技術が出てきたことなど、本実証技術は大変有用なものであった。また、実証機関が事業者から聞いた感想から考えても、今年度の手数料は決して高い宣伝費ではないと考えられる。また 2 つのトラブルがあったことに関しても、簡単に対応できることが実証試験から分かったという点では、実証機関がコンサルティング、又は技術アドバイスの役割を果たしているということがいえる。これらは実証機関にとっても有効であったと考えられる。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・事務局から、資料 6 に基づき、「今後のスケジュール」を説明。

(5) その他

【環境省挨拶】本分野では次年度も継続して行っていく。今後もよろしく申し上げます。

- ・本日の議事については、議事要旨を事務局の責任で作成し、後日ホームページで公開す

る。(委員了承)

以上